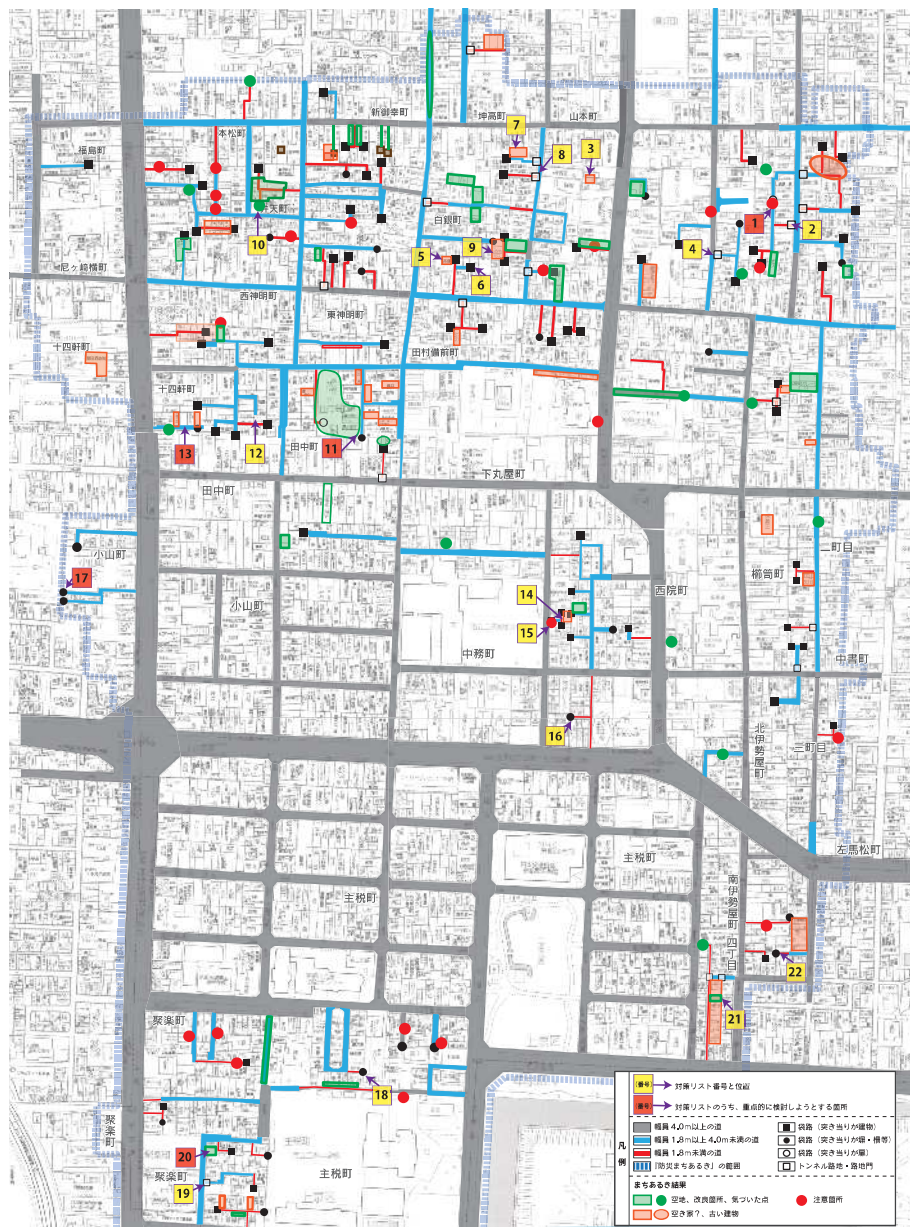


具体的取組 候補地



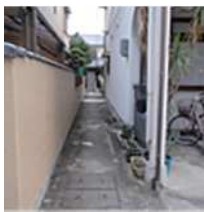
すぐにできる対策リスト

防災まちあるき より

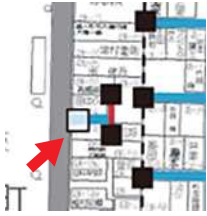
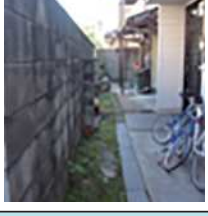
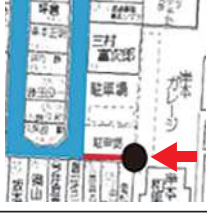
防災まちづくり計画を策定する過程で、まち歩きやワークショップを実施し、まちの現状を確認してきました。その中で、防災上の課題を把握することができ、具体的な取組や対策事業を想定できる箇所を見つけることができました。

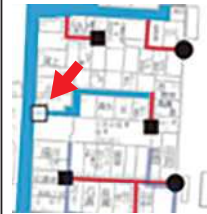
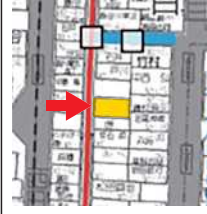
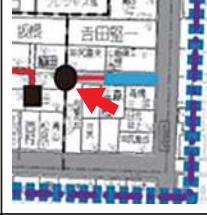
ここでは、対策の可能性がある候補地をリスト化しました。ご自身の町や近隣にある場合、このリストを参考に取組をぜひ検討してみてください。

No.	1			現状	路地中ほどのブロック塀に扉があり通り抜け可能であるが、段差があり、通行上支障を生じる可能性がある。
ブロック	1			対策	段差を解消することで、非常時、避難しやすくなる。
町名	南清水町				
形状	袋路				
幅員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業		
No.	2			現状	状態の良い町家が連なる中に木造のやや老朽化が進むトンネル路地があり、災害時の2方向避難に課題あり。
ブロック	1			対策	トンネル部分の耐震耐火性能を高めることにより災害時の安全性を向上させる
町名	南清水町				
形状	トンネル路地				
幅員	1.8m未満	想定される事業(案)	袋路等始端部における耐震・防火改修事業		
No.	3			現状	持ち主不明の空家が路地奥にあり、管理が不十分である。
ブロック	3			対策	衛生面に不安があるため、所有者へ除却を働きかける。
町名	天秤丸町				
形状	専用通路の奥				
幅員	—	想定される事業(案)	老朽木造建築物除却事業		

No.	4			現 状	京町家が連なる袋路の入口に木造のトンネル路地があり、奥の住宅群の避難路として重要である。
ブロック	3			対 策	トンネル部分の耐震耐火性能をたかめ、災害時の重要な避難経路として確保する必要がある。
町 名	秤口町				
形 状	トンネル路地				
幅 員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	袋路等始端部における耐震・防火改修事業		
No.	5			現 状	狭小な袋路奥に位置しており、空家の可能性が高い。
ブロック	4			対 策	空家の活用や除却について所有者に働きかける。
町 名	田村備前町				
形 状	袋路				
幅 員	1.8m未満	想定される事業(案)	老朽木造建築物除却事業 他		
No.	6			現 状	袋路のつきあたりにマンションの敷地がある。
ブロック	4			対 策	マンションの塀に扉をつけることにより、2方向の避難路を確保できる。
町 名	田村備前町				
形 状	袋路				
幅 員	2.7m~4.0m	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業		
No.	7			現 状	袋路沿いに位置し、工場とトイレがあったが空家の可能性が高く、老朽化が進んでいる。
ブロック	4			対 策	空家の活用や除却について所有者に働きかける。
町 名	坤高町				
形 状	袋路				
幅 員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	老朽木造建築物除却事業 他		
No.	8			現 状	狭小幅員の袋路入口のトンネル路地であり、避難経路として重要であるが構造上不安。
ブロック	4			対 策	構造補強を検討し耐震・耐火性を高め、避難経路として確保する。
町 名	白銀町				
形 状	トンネル路地				
幅 員	1.8m未満	想定される事業(案)	袋路等始端部における耐震・防火改修事業		

No.	9			現 状	T字に分岐する袋路奥に空家と思われる建物が連なっている。
ブロック	4			対 策	端部の建物を除却し防災広場とすることで、路地8mで抜ける避難路を確保することができ、2方向避難が実現できる。
町 名	白銀町				
形 状	袋路				
幅 員	2.7m~4.0m	想定される事業(案)	老朽木造建築物除却事業		
No.	10			現 状	袋路のつきあたりがトタン波板で塞がれており、成人男子でなければ、災害時の突破は困難。
ブロック	5			対 策	トタン壁を誰でも通れる仕様とすることが出来れば、2方向避難を確保できる。
町 名	弁天町				
形 状	袋路				
幅 員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業		
No.	11			現 状	袋路つきあたりにブロック塀があり、その向こうに集合場所の新出水ガレージがある。
ブロック	6			対 策	ブロック塀に扉をつけることで2方向の避難経路とともに、集合場所への安全な避難経路を確保できる。
町 名	田中町				
形 状	袋路				
幅 員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業		
No.	12			現 状	袋路のつきあたりにブロック塀があり、それに隣接して別の袋路が位置している。
ブロック	6			対 策	塀に扉をつけることで、隣接する袋路と連結することができ、2方向の避難経路を確保できる。
町 名	十四軒町				
形 状	袋路				
幅 員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業		
No.	13			現 状	袋路沿いに高いブロック塀があり、防災上課題がある。
ブロック	6			対 策	所有者と相談の上、改善してもらい、通路の安全性を確保する。
町 名	十四軒町				
形 状	袋路				
幅 員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	危険ブロック塀改善事業		

No.	14			現状 袋路つきあたりに老朽化が進む建物があり、空き家の可能性が高い。
ブロック	8			対策 所有者への働きかけにより、除却が可能であれば、隣接する袋路への通り抜けが可能となり、2方向避難が実現され、防災上の効果が高い。
町名	中務町			
形状	袋路			
幅員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	老朽木造建築物除却事業	
No.	15			現状 袋路の入口に位置するトンネル路地で、幅はやや広いものの若干老朽化が進んでいる。
ブロック	8			対策 トンネル部分の耐震耐火性能をたかめ、災害時の重要な避難経路として確保する必要がある。
町名	中務町			
形状	袋路			
幅員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	袋路等始端部における耐震・防火改修事業	
No.	16			現状 狭小幅員の袋路つきあたりを8段のブロック塀が塞いでおり、その向こう側にガレージが位置している。
ブロック	8			対策 塀に扉をつけることで、隣接する袋路と連結することができ、2方向の避難経路を確保できる。
町名	西院町			
形状	袋路			
幅員	1.8m未満	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業	
No.	17			現状 袋路つきあたりにブロック塀があり、その向こう側にガレージがある。
ブロック	9			対策 塀に扉をつけることで、隣接するガレージと連結することができ、2方向の避難経路を確保できる。
町名	南小山町			
形状	袋路			
幅員	2.7m~4.0m	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業	
No.	18			現状 狭小幅員の袋路つきあたりをブロック塀が塞いでおり、その向こう側にガレージが位置している。
ブロック	11			対策 塀に扉をつけることで、隣接するガレージと連結することができ、2方向の避難経路を確保できる。
町名	主税町			
形状	袋路			
幅員	1.8m未満	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業	

No.	19			現状 狭小幅員の袋路入口のトンネル路地であり、避難経路として重要であるが構造上不安がある。
ブロック	11			対策 奥行の長い袋路入口であり、避難経路として重要であるが、不安定であり、防災上課題がある。
町名	下主税町			
形状	トンネル路地			
幅員	2.7m~4.0m	想定される事業(案)	袋路等始端部における耐震・防火改修事業	
No.	20			現状 路地、袋路の2方向に面した空地がある。
ブロック	11			対策 空地を防災広場にするにより、2方向避難が確保できる。
町名	下主税町			
形状	路地沿い			
幅員	1.8m~2.7m	想定される事業(案)	まちなかコモンズ整備事業	
No.	21			現状 長く狭い路地沿いに空地がある。
ブロック	12			対策 空地を防災広場とすることにより、周辺の防災性を向上させる。
町名	南伊勢屋町			
形状	路地沿い			
幅員	1.8m未満	想定される事業(案)	まちなかコモンズ整備事業	
No.	22			現状 袋路つきあたりにブロック塀があり、それに隣接してガレージが位置している。
ブロック	12			対策 ブロック塀に扉をつけることにより、ガレージへ通り抜ける避難経路が確保でき、2方向避難が実現する。
町名	左馬松町			
形状	袋路			
幅員	1.8m未満	想定される事業(案)	緊急避難経路整備事業	
No.				現状
ブロック				対策
町名				
形状				
幅員		想定される事業(案)		

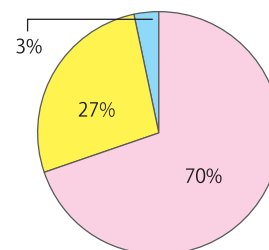
No.			現 状	
ブ ロ ッ ク				
町 名			対 策	
形 状				
幅 員	想定される事業(案)			
No.			現 状	
ブ ロ ッ ク				
町 名			対 策	
形 状				
幅 員	想定される事業(案)			
No.			現 状	
ブ ロ ッ ク				
町 名			対 策	
形 状				
幅 員	想定される事業(案)			
No.			現 状	
ブ ロ ッ ク				
町 名			対 策	
形 状				
幅 員	想定される事業(案)			

防災まちづくり アンケート結果

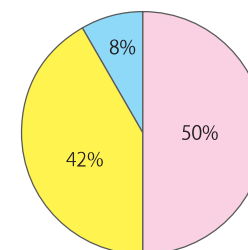
平成29、30年度の総合防災訓練では、参加いただいた住民の皆さんとともに、防災まちづくりアンケートを実施しました。それぞれ約300名の回答をいただき、今後の活動を進める上で、大切な意見を把握することができました。その概要をご紹介します。

そう思う
 どちらとも思わない
 そう思わない

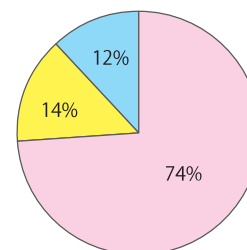
京都らしい町並みは残っている？



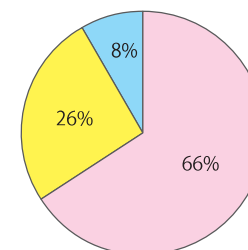
コミュニティはしっかりしている？



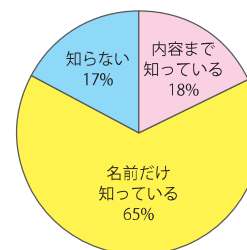
倒壊・火災は心配？



避難は心配？



学区で取組んでいる
防災まちづくり活動を知っていた？



出水には、京都らしい町並みが残っていると
思われる方が7割に達しており、コミュニティ
(地域のつながり)も「しっかりしている」と考
える方が半数おられました。一方で、災害時の
火災や避難を心配される方も、7割前後おら
れることが分かりました。またこれまで3年間
の取組で、防災まちづくりの活動の知名度は、
8割に達していることも分かりました。

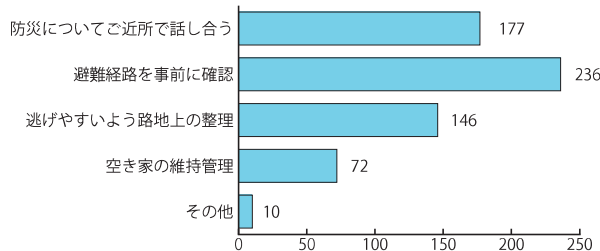
災害につよいまちを実現するには？

災害につよいまちを実現するには、具体的な取組を積み重ねていく必要があります。それ
その立場で、どのような取組が必要か、ご意見を確認しました。

(※複数回答が可能な設問のため、回答総数は必ずしも一致しません。)

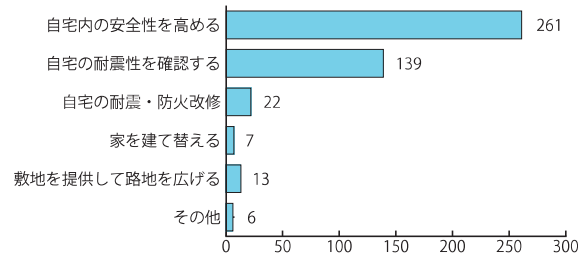
問 災害につよいまちを実現するために、
1 あなた自身が取組む必要があると思うことは、次のうちどれですか？

各個人や家庭で取組については、「避難経路を確認する」ことが最も多く、次いで「近所で話し合う」「路地を管理する」でした。「避難への備え」と「近所での話し合い」を重視される方が多くおられることが分かりました。



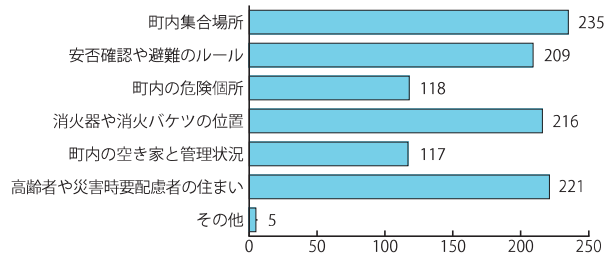
問 災害につよいまちを実現するために、あなたのお住まいについて
2 取組む必要があると思うことは、次のうちどれですか？

「住まい」に関する取組では、家具の転倒防止や感震ブレーカーの設置など「自宅内の安全性を高める」ことが最も多く、「耐震性の確認」が次いでいました。「耐震・防火改修」「建替え」「路地の拡幅」の必要性に関するご意見は少数でした。



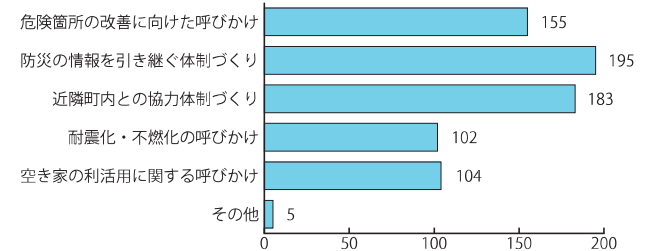
問 災害につよいまちを実現するために、
3 住民が知っておくべき情報と考えられるのは、次のうちどれですか？

「情報」に関しては、どの内容も全般に必要性が認められていますが、特に「町内集合場所」「高齢者や災害時要配慮者の住まい」「消火器や消火バケツの位置」など、発災直後に必要な情報が重視されていることが分かりました。



問 災害につよいまちを実現するために、
4 各町内会で取組むのがよいと考えられるのは、次のうちどれですか？

各町内会の取組については、「防災情報の引き継ぎ」が最も多く、次いで「近隣町内との協力体制づくり」があり、各種の「呼びかけ」はその後に続いています。町内会での継承と、近隣町内との連携強化が必要とされていることが分かりました。



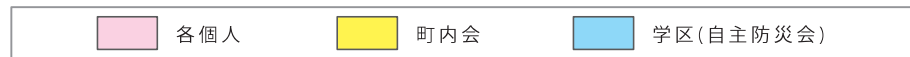
防災まちづくりについてのご意見

(自由記入)

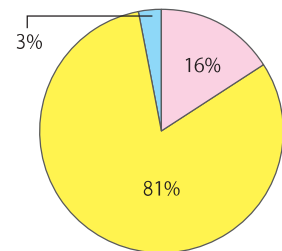
●高齢者が多く何かあってもすぐに動けない。若い方々との関係が出来てなく、声とか掛けたり出来ないかもしれない。だんだん難しくなっていくそうです。●高齢者の方が多く、実際助けることはむずかしい●このような災害に対する備えの意識付けを本日の参加者だけでなく一般全員に浸透してほしい。高齢者の災害避難対策が特に必要。●自己責任を自覚する●すべて必要と思っていますが、なかなかむずかしい問題でもあります。●町内ごとに機会(地藏盆など)を設けて訓練する(話し合う)●町内にある、アパート、マンション、ホテル、民泊との協力関係をどう作っていくか●町内防災計画書と学区の防災計画書とのリンク●できるだけ分かりやすい、実効性のある防災をお願いしたい。当町内では避難マップに主要施設のTEL、安否確認の方法、日頃の取り組みをA41枚にまとめています。透明ファイルにに入れて、リングをつけ、家具に引っ掛けられるようにしています。●出水学区に関しては道幅が非常にせまいので、たとえば、電柱とかの場所を変えて道幅を広くした方がよいと思う。●「防災まちづくり」についてあまり詳しく理解できていません。広報に努めて頂ければと思います。●LINEやSNSを活用した連絡方法の検討も若い方々をまきこむ意味でもできるとよいと思います●空き家の更地化や活用を行政指導ですすめてほしい●新しい情報など知らないことも教えてもらったので勉強になりました。ありがとうございました。●いろいろな意味で町内のコミュニケーションの場を作って話し合う。●となりは何をする人ぞという関係を少しでも声かけし合ったり、出来ることはお互いに少しでもやろうという気持ちを育てること。義務感ではなく、人としてそうし合えるようにすること。●日常生活でコミュニケーションをとれるようにする(あいさつ等)●避難場所の二条北小への通路確保は万全か?●古い民家などが新しい宿泊所などに建替えられていくが、その場合の管理をしっかり承してもらいたい。●防火用のバケツがこわれているものがあるので、新しいものに替える●防災委員が毎年交替されるので引継ぎをしっかりされるか、3~4年は続けてもっていただきたい。●防災について気づいた事がある時、どこに言いますか?会長さん?●防災への関心を高く持つように心がける●まず地域のコミュニティが大切です。親しい中にも仲良い関係を!●先ずは助け合いの風土環境を。挨拶だけでも交流の機会を各年代で増やす工夫を。●マンションだけの特殊事情があると思われるので、過去の大震災に学びながらマンション群の防災指導も行っていただきたい。●民泊施設が増えてきているので防火設備の整備●民泊への連絡●もっと実際に近い防災訓練が必要では。前回のような夜間の訓練。●やはり、「人の心」が重要だと思う。町内各戸での「人の心の育成・発展」がハードの面同様に大事だと思う。●路地の狭さ、空き家が増えている中、日頃より調査をより強く希望します●忘れたころにやってくる災害に日々心掛けて生活したい●災害に負けない街づくりを京都の知恵で!

防災まちづくりに取り組むのは誰？

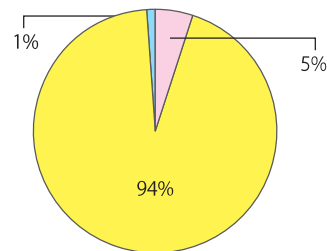
防災まちづくりの取組においては、各個人、町内会、学区全体それぞれに、主となるにふさわしい役割が、あります。以下の具体的な取組内容について、みんなで確認しました。例えば、自宅の耐震補強など、各個人だけではなく町内会が関わる必要性が意識されているものもあります。誰が主となり、誰が支援するのか、今後の防災まちづくり活動の参考にしてください。



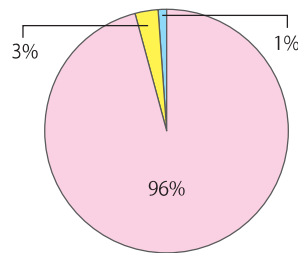
「災害時要配慮者の把握」は？



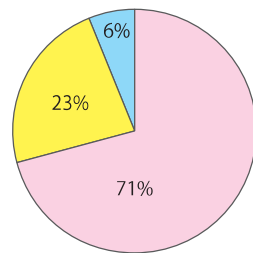
町内集合場所での安否確認や誘導方法の確認は？



家具の転倒防止や火災報知器の設置は？



自宅の耐震補強は？



出水学区では、京都らしい町並みが残り、コミュニティもある程度しっかりしているものの、路地や古い木造住宅が多く、災害時の火災や避難に不安を感じておられる方が多いことが分かりました。自宅の安全性を高め、近所と話し合い、避難経路や災害時の対応を確認することの重要性が意識されています。誰が主となり、誰が支援する取組なのかも、明らかになってきました。このアンケートを参考に、災害に負けないまちづくりを、出水の知恵で実現しましょう。

避難経路マップ

各町内集合場所から避難所までの避難経路を、地図にまとめました。今後の防災まちづくりの参考にしてください。

